

2019 年度自己評価書

学校法人藤学園 藤女子中学校・高等学校

1. 教育の目標	カトリックの精神に基づき、教育と研究を通して広い知識と豊かな心を備え、将来家庭・社会を担って行く女性を育成し、且つ国際的視野を持つ教養ある人間を育成する。
2. 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりと温かい心を持ち、明るく素直に人と接する心を育てる。 ・自ら考えて自主的に行動し、自分の言動に責任を持つ力を育てる。 ・自分の持つ特性や能力を知り、それを十分に伸ばすことのできる力を育てる。 ・国際的な視野を育て、世界の中の一員としての意識を育てる。 <p>「ひとりひとりの咲くべき花を咲かせよう ～ うつしく やさしく しなやかに ～」</p>
3. 評価方法	評価方法は次の4段階である。A:大変よくしている B:よくしている C:あまりしていない D:まったくしていない

4. 自己評価結果

分野	評価項目	自己評価	
		達成度	改善の方策
建学の精神	キリスト教(カトリック)の教育観、(人知を超えたものへの畏敬の念を持ち、人間としての愛の心や真の心の豊かさを身につけること)を理解しているか。	B	「藤女子中学校・高等学校の未来共創ビジョン」をもとに、引き続き全教職員が生徒の手本となるべく建学の精神を日々生きるよう促す。また、司祭、修道者による研修会・修養会を充実させる。 職員朝礼や職員会議などで行っている教職員の祈りを継続して深めていく。また、宗教科教員の協力により、「今日の藤」やデジタルサイネージに、聖書の言葉と解説を週替わりで掲示し、学校を挙げて聖書に親しめるようにする。 各種行事や活動のあり方についても、より建学の精神に叶うものであるように、全職員で意義を確認しながら推進していく。
	建学の精神、(キリスト教の愛の精神に基づき、広い知識と豊かな心をもって、家庭や社会を担う女性を育てる)を理解しているか。	B+	
	校訓である謙遜(あるがままの自分を直視し、長所も欠点も素直な心で認め励むこと)を理解しているか。	A	
	校訓である忠実、すなわち家庭、学校、社会に対する自分の務めを責任もって果たすこと、を理解しているか。	A	
	校訓である潔白(身も心も清らかで正しく、良心に従って生きること)を理解しているか。	A	
学習指導	毎回の授業を充実させ、生徒一人ひとりの学習意欲向上に向けた努力をしているか。	B+	2020年度を「Web授業元年」と位置付け、教職員のICT技術のさらなる向上を目指し、Web授業の完成度を高めていく。また、生徒の表現力・判断力・思考力を向上させることに努め、最先端の研究や技術に触れることができる学びの場を、関係大学・専門家などと連携し、生徒に提供できるよう教職員で開拓していく。 個々の生徒に対する温かで粘り強い学習指導を、学習ノートや面談(Web上を含む)を通して実践し、基礎基本の着実な習得・定着が図れる指導体制・方法・施策を準備する。
	生徒からの授業アンケートの結果を授業改善のためにいかしているか。	B+	
	生徒一人ひとりの家庭学習の状況を把握しているか。	B	
	努力した生徒に対し適切な声かけをしているか。	A	
	努力の足りない生徒に適切な声かけをしているか。	B	
	授業開始のチャイムで授業を始めているか。	B+	
生徒指導	休職やその他の理由で学校を離れるとき、時間割変更や学習内容の適切な指示で自習とならぬよう努めているか。	A+	生徒指導部の主導で、挨拶や登下校時の公共マナー指導を引き続き行う。生徒の長所を認めつつ、足りない点は、きめ細やかな指導を一致して行うことを全教職員で確認する。特にSNS等のネット上のマナーについては、ネットに潜む危険性を生徒が自らの問題として捉えることができるよう、保護者の協力を得ながら指導を行う。 本校で長年行われている、生徒への注意深い観察と温かな言葉かけについては、教職員研修でさらに研鑽を積む。
	生徒心得の内容とそれを守ることの意義を自ら理解し、生徒に理解できるよう折に触れ話しているか。	B+	
	身だしなみを整えることの意義を理解し、自ら模範となり、折に触れ生徒に伝えているか。	B+	
	挨拶をする、時間を守る、話を集中して聴く、自分の言葉で話す、周囲を思いやるなど、良好な人間関係を築くために必要な社会性を身につけられるよう導いているか。	A	
	生徒の個人的な状況(家庭環境・友人関係・既往症・悩みなど)を知っているか。	B+	
	生徒心得が守られていない生徒に、必要な声かけを行っているか。	B+	
	生徒指導上の問題が起こった時、適切な人・学年・分掌に相談・報告し、連携して解決に努めているか。	A+	
	個々の保護者と良好な関係にあり、特に生徒指導面において連携ができていくか。	B	
職場環境	生徒指導上の問題で生徒と向き合う時、一個の人格として受け入れ、どのようにすべきか気付くよう愛情と根気をもって指導しているか。	A	
	職員同士の挨拶や声かけなどを通して明るく気持ちのよい環境づくりに努めているか。	A+	教職員相互が気持ちよく過ごせる職場の環境づくりに努める。教職員間でコミュニケーションをとりながら、知恵を出し合う会議の在り方を工夫をする。日常的にはメールやClassroom、会議ではパワーポイント・校内ネットワークの共有フォルダを有効活用すること等で、紙の節約、ゴミの減少を心がけるよう徹底していく。
	職員室・印刷室・休憩室など共有の場で、互いが気持ちよく過ごせるよう配慮しているか。	A+	
	コピー機、印刷機、コンピューター、冷蔵庫など共有の設備を、互いが気持ちよく使えるよう配慮して使用しているか。	A+	
節電・節水・紙の節約・ゴミの分別など地球環境を考えた生活をしているか。	A		

5. 総合的な評価結果

総合評価	理由
B+	2019年度の事業計画に従って、ほぼ予定通り遂行することが出来た。65分授業も3年目を迎え、全館にWi-Fi環境を整え、クロムブックも約200台設置し、生徒がより主体的に学ぶ環境が整備された。来たる2025年には創立100周年を迎える。伝統あるカトリック中高一貫女子校の魅力と、緊急時にもWeb授業等での対応が可能な教育環境を積極的に広報し、2020年度においても入学者数の増加を図る。